

「ENGINEプログラム」1年を振り返る！

ENGINEプログラムのコンセプト

ENGINE事業は、人口減少やPostCOVID19社会を見据えて「移動・交流・体験」価値を再定義し、観光や生活の基盤となる新しいモビリティや施設活用、食や健康産業の未来を拓く人材を育成することを目的としています。広域的な産学官連携プラットフォーム「円陣」を構築し、富山大学のみならず、信州大学や金沢大学の教育資源と産学連携を融合したサーティフィケーション・プログラムの構築を目指しています。

リテラシー強化フェーズ 「富山の地域づくり ～地域のトップリーダーを繋ぐ～」

富山大学・信州大学・金沢大学をオンラインでリアルタイムにつないだ授業「富山の地域づくり～地域のトップリーダーを繋ぐ」（前期・ENGINE必須科目）では、本学からは99名の学生が受講しました。

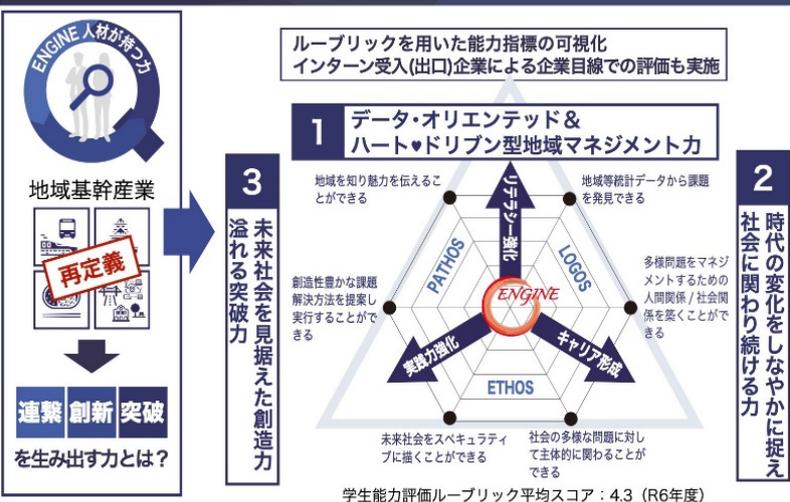
富山大学が担当した「インフラ」のテーマでは、富山県企業である「日本海ガス絆ホールディングス」の動画資料を視聴した上で、過疎・高齢化、核家族化といった地域課題を対し、コト・ヒト・モノからインフラを考える機会としました。グループワークでは「脱炭素社会に向けて自分自身がどう貢献していくのか」について活発に意見を交わしました。

キャリア形成フェーズ 地域で求められる人材を育成 「ENGINEインターンシップ」

本年度のインターンシップは、再来年度の本格実施を見据えたプロトタイプとして、富山県・長野県・石川県の企業と協働して行いました。本学からは8名の学生が参加しました。

学生は、ENGINEのキーコンセプトである、連繋・創新・突破の具体化という課題に取り組むため、三協立山株式会社（富山県）、立山科学グループ（富山県）、日本海ガス絆ホールディングス（富山県）、東洋観光事業（長野県）に訪問しました。また、課題の具体化としての映像作りでは、チューリップテレビ（富山県企業）に助言を頂きました。

ENGINE人材の「3つの力」と「6つの観点」



令和4年度のENGINEプログラム！

トップリーダーを繋ぐ

ENGINE必須科目「富山の地域づくり～地域のトップリーダーを繋ぐ」は、4月18日、月曜日の5限に第1回の授業を行います。但し、開講時間は通常の5限より20分繰り下げ、16:50～18:20までとなります。富山大学の授業のテーマは「インフラ」です。詳しくはシラバスでご確認ください。



「地域のトップリーダーを繋ぐ」受講の様子

大しごと一くin富山

「ENGINE NEWS」のVOL5の記事で紹介した、学生と企業人が気軽に対話する交流会「大しごと一くin信州」を来年度は、富山大学でも実施します。生き方・働き方を考えるきっかけづくりの場として、ぜひ、ご活用ください。実施時期は夏ごろを予定しています。

ENGINE教員 メッセージ

信州大学、金沢大学、そして富山大学の北陸新幹線エリアの3大学が協働して取り組むENGINEプログラムは、様々な分野の地域産業のこれからの在り方を創造し、新しい働き方を創出するための柔軟な思考力と豊かな発想力を涵養する教育プログラムです。

不確実性が高いこれからの時代に起きうるであろう数多の問題は、既存の文系、理系の専門分野だけでは解決できない複雑なものであると想定されます。

我々が経験したことのない未知の課題に対し、3県の大学、企業、行政が円陣（ENGINE）を組み、相互の教育・研究資源を活用しながら、変化への対応力や突破力を持った人材を育成します。データサイエンスを活用することで、人類の叡智を繋ぎ、輝く未来を拓いていきましょう。

事業代表教授 岸本 壽生

